

途

今日

彼は死ぬために旅に出た

明日

彼はそこに着くだろう

彼の温もりには

いつも焦げた色をした生命が巻きついていて

ぎしぎしと音をたてていた

為す術などあろうはずもなく

この部屋に残されたもの——

喜々として生活を彩り

縫れた糸を解くために置かれたもの——

私は今でもそれを愛しむ

生きる意味など探してはいけなかったのかもしれない

彼はいつも陽光を眺め

ひたすら、それを受け入れ

夜に沈むことなどなかったのに

私は今日から、怯えたまま生きなければならないが

忘れることにも挑まなくてはならない

一分一秒でも長く忘れることに——

たとえまやかしであろうとも・・・

出窓に吊るされ、干された赤唐辛子

皺々に干からびた皮

理解しようとする事など拒みたい

だから、彼を一人で行かせたことに後悔はない

今日

彼は死ぬために旅に出た

明日

私は生きているだろう

(2011.12.24)